

令和4年1月19日  
総務教育常任委員会資料  
消防本部警防課・救急課

令和3年の火災・救急・救助概要について

加古川市消防本部

# 火 災 概 要

## 1 火災件数

- (1) 令和3年の火災件数は76件で、前年と比較すると20件の減少となっています。
- (2) 火災種別毎の火災件数を前年と比較すると「建物火災」は44件で9件の減少、「林野火災」は0件で4件の減少、「車両火災」は前年と同数の10件、「その他火災」は22件で7件の減少となっています。
- (3) 全火災(76件)のうち「建物火災」の占める割合は57.9%となっています。

市町別 \ 火災種別	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	増 減 数
加古川市	33		9		18	60	- 9
稲美町	10		1		4	15	- 2
播磨町	1					1	- 9
合 計	44	0	10	0	22	76	- 20
増 減 数	- 9	- 4	±0	±0	- 7	- 20	

## 2 被害程度

### (1) 人的被害

ア 火災により38世帯88人が、り災しています。

イ 「死者」は6人発生して前年と比較すると2人の増加、「負傷者」は19人発生して2人の減少となっています。

市町別 \ 区分	り 災 世 帯 数 ( 世 帯 )	り 災 人 員 ( 人 )	死 者 ( 人 )	負 傷 者 ( 人 )
加古川市	30	69	3	19
稲美町	7	18	3	
播磨町	1	1		
合 計	38	88	6	19
増 減 数	- 4	- 5	+ 2	- 2

(2) 物的被害

ア 建物火災の焼損床面積は 4,467 m<sup>2</sup>で前年と比較すると 3,084 m<sup>2</sup>の増加となっています。

イ 建物火災による損害額は 2 億 2,233 万 4 千円で前年と比較すると 3,894 万 5 千円の増加となっています。

区分 市町別	建物焼損 床面積 ( m <sup>2</sup> )	床面積 増減数 ( m <sup>2</sup> )	損害額 ( 千円 )	損害額 増減数 ( 千円 )
加古川市	3,681	+ 2,882	189,862	+ 89,500
稲美町	786	+ 300	32,467	- 38,902
播磨町		- 98	5	- 11,653
合計	4,467	+ 3,084	222,334	+ 38,945

3 主な出火原因

全火災 (76 件) の出火原因を見ると、「たき火・焼却火」が 13 件で全体の 17.1%と最も多く、次いで「たばこ」が 10 件、「放火」が 9 件、「こんろ」が 4 件、「火あそび」が 3 件となっています。

市町別 火災種別 原因別	加古川市					稲美町					播磨町					合計			
	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	小 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	小 計	建 物	林 野	車 両		船 舶	そ の 他	小 計
たき火・焼却火	1				8	9					3	3	1					1	13
たばこ	7		1		1	9	1				1							0	10
放火	3		1		4	8	1				1							0	9
こんろ	4					4					0							0	4
火あそび	2				1	3					0							0	3
溶接機等						0	2				2							0	2
配線器具					1	1	1				1							0	2
電灯・電話等の配線	2					2					0							0	2
不明	5					5	1				1							0	6
その他	9		7		3	19	4		1		1	6						0	25
合計	33	0	9	0	18	60	10	0	1	0	4	15	1	0	0	0	0	1	76

#### 4 その他災害の活動状況

- (1) 令和3年のその他災害の件数は1,382件で75件増加しています。
- (2) その他災害種別毎の件数を前年と比較すると「危険物排除」は62件で10件の減少、「燃焼物排除」は27件で7件の減少、「警戒・警備」は39件で6件の減少、「誤報」は161件で9件の増加、「水防」は17件で14件の増加、「調査」は7件で2件の減少、「救急支援」は976件で61件の増加となっています。
- (3) 全その他災害件数のうち、「救急支援」の占める割合は70.6%となっています。

種 別	内 容	加古川市	稲美町	播磨町	他 市	小 計	合計	増減数
危険物排除	施設等から危険物の流出	1				1	62	-10
	交通事故等による油流出	48	8	5		61		
燃焼物排除	たき火・焼却火	21	6			27	27	-7
	火あそび					0		
警戒・警備	異臭・異音	2				2	39	-6
	危険物流出事故の警戒	1	1	1		3		
	防災ヘリ等の離着陸場の設定、誘導、警戒	20	5	2		27		
	建物等の倒壊、落下に対する警戒	1				1		
	鎮火後の現場警戒	4	2			6		
誤 報	自動火災報知設備等の誤作動又は誤操作	118	5	8		131	161	+9
	火災と見誤ったもの (たき火の煙、水蒸気等)	24	3	1		28		
	虚偽の通報	1	1			2		
水 防	風水害等の活動又は警戒	15	2			17	17	+14
調 査	事後に知り得た災害事故調査	6		1		7	7	-2
救 急 支 援	心肺機能停止状態が疑われる場合の支援	630	75	71		776	976	+61
	高速道路、バイパス、国道、県道等における活動隊の安全管理	80	4	13	3	100		
	傷病者の搬出における支援	51	5	8		64		
	その他	30	1	5		36		
そ の 他	上記の種別に該当しないもの	68	16	9		93	93	+16
合 計		1,121	134	124	3	1,382	1,382	+75

# 救 急 概 要

## 1 救急出動件数

(1) 令和3年の救急出動件数は15,658件、搬送人員数は14,572人で前年と比較すると救急出動件数は223件増加(+1.4%)、搬送人員数は292人増加(+2.0%)しています。

(2) 救急出動件数は1日平均42.9件(前年42.2件)で、33.6分(前年34.1分)に1回の頻度で救急出動しています。また、1日の最多救急出動件数は66件(前年69件)となっています。

(3) 現場到着所要時間の平均は8.4分(前年比+0.2分)となっています。

市町別	区分	救急件数	増減数	搬送人員	増減数
加古川市		12,630	+192	11,726	+240
稲美町		1,430	+41	1,352	+50
播磨町		1,583	-15	1,479	-4
他市		15	+5	15	+6
合計		15,658	+223	14,572	+292

## 2 事故種別別の救急出動件数

事故種別別の救急出動件数については、「急病」が10,145件で最も多く、前年より305件増加し、全体の64.8%を占めています。

事故種別	区分	急病	一般負傷	交通	転院	その他	合計
件数		10,145	2,448	1,282	1,134	649	15,658
比率		64.8	15.6	8.2	7.2	4.1	100.0
増減数		+305	+26	+30	-88	-50	+223

※割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

## 3 傷病程度別の搬送人員数

傷病程度別の搬送人員数については、「中等症」が7,031人で最も多く、前年より306人増加し、全体の48.3%を占めています。

傷病程度	区分	軽症	中等症	重症	死亡	合計
人員数		5,385	7,031	1,919	237	14,572
比率		37.0	48.3	13.2	1.6	100.0
増減数		-139	+306	+124	+1	+292

※割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

#### 4 年齢区分別の搬送人員数

年齢区分別の搬送人員数については、「高齢者」が8,814人で最も多く、前年より160人増加し、全体の60.5%を占めています。

年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
人員数	7	844	509	4,398	8,814	14,572
比率	0.0	5.8	3.5	30.2	60.5	100.0
増減数	-4	+106	-34	+64	+160	+292

※割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。  
 ※統計表中の「0.0」は、単位未満の数を示しています。

#### 5 病院収容所要時間別の搬送人員数

(1) 救急事故の覚知から傷病者を医療機関に収容するまでに要した時間は、「30分以上60分未満」が8,648人で最も多く、全体の59.3%を占めています。

(2) 病院収容所要時間の平均は35.4分（前年比+1.7分）です。

所要時間	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	平均 所要時間
人員数	3	531	4,686	8,648	660	44	35.4分
比率	0.0	3.6	32.2	59.3	4.5	0.3	
増減数	+1	-51	-611	+770	+159	+24	

※割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。  
 ※統計表中の「0.0」は、単位未満の数を示しています。

#### 6 心肺機能停止傷病者の救命率

一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者50人のうち、「1か月後生存者数」は4人（1か月後生存率8.0%）、「1か月後社会復帰者数」は3人（1か月後社会復帰率6.0%）となっています。

区分 年	心肺機能停止 傷病者数	一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者数				
		1か月後 生存者数	1か月後 生存率	1か月後 社会復帰者数	1か月後 社会復帰率	
令和3年	308	50	4	8.0%	3	6.0%
令和2年	299	53	5	9.4%	4	7.5%

#### 7 新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）の搬送人員数

新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）の搬送人員数は424人で、このうち陽性者は240人です。

区分 市町別	新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）搬送人員数			
	総数	増減数	うち陽性者数	増減数
加古川市	371	+156	216	+173
稲美町	27	+14	8	+8
播磨町	26	+2	16	+6
合計	424	+172	240	+187

# 救 助 概 要

## 1 救助出動件数

(1) 令和3年の救助出動件数は334件で、前年と比較すると10件減少しています。

(2) 事故種別毎の救助出動件数では、「建物等による事故」が159件(47.6%)と最も多く、次いで「交通事故」が72件(21.6%)となっています。

なお、「建物等による事故」とは、「施錠された建物内での安否確認」のほか、建物内での「閉じ込め」や「挟まれ」等も含まれています。

事故種別 市町別	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他 の事故	合計	増減数
加古川市	35	56	2	1	1	128	2	42	267	+3
稲美町	6	9			2	8		5	30	-7
播磨町	1	5	1			23	1	4	35	-7
他 市		2							2	+1
合 計	42	72	3	1	3	159	3	51	334	-10
前年比	-11	+15	-4	+1	+1	-13	-1	+2	-10	

## 2 事故種別の救助人員数

(1) 救助人員数は170人で、前年と比較すると14人の増加となっています。

(2) 事故種別毎の救助人員数では、「建物等による事故」が94人(55.3%)と最も多く、次いで「交通事故」が41人(24.1%)となっています。

事故種別 市町別	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他 の事故	合計	増減数
加古川市	5	27	2	1	1	78	1	19	134	+11
稲美町	3	11			1	3		1	19	+6
播磨町		1				13		1	15	-4
他 市		2							2	+1
合 計	8	41	2	1	2	94	1	21	170	+14
前年比	+5	+12	-3	+1	+1	-1	±0	-1	+14	

### 3 傷病程度別の救助人員数

事故種別・傷病程度別の救助人員数を前年と比較すると、「死亡」は54人で9人の増加、「重症」は22人で3人の減少、「中等症」は42人で10人の減少、「軽症」は21人で7人の増加となっており、最も多い「死亡」については、全体の31.8%を占めています。

事故種別 傷病程度	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他 の事故	合計	増減数
死亡	5	4	2			38	1	4	54	+ 9
重症	1	5				15		1	22	- 3
中等症	2	18			1	18		3	42	- 10
軽症		9		1	1	7		3	21	+ 7
その他		5				16		10	31	+ 11
合計	8	41	2	1	2	94	1	21	170	+ 14
前年比	+ 5	+ 12	- 3	+ 1	+ 1	- 1	±0	- 1	+ 14	